

「平成29年度 新採用看護職員研修」のご紹介

看護部 看護教育担当課長 山谷 禎子

今年度の新採用看護職員 74 名（新卒看護 69 名、既卒看護師 5 名）は、3 日間の「新採用看護職員研修」で看護職員としての立場や役割を学びました。また、今年度初めての試みとして事務、コメディカル等の「部門訪問」を行い、自分たちで訪問し、各部門で大切にしていることや看護職員との連携について質問をし、多職種との連携などを学びました。訪問後はグループごとに学びを発表し、共有することができました。

緊張いっぱいの新人看護職員にやさしくわかりやすい説明をしていただいた各部門の皆様には感謝いたします。

2 週目からは「看護の目的と根拠を考え、安全・

安楽で安心できる看護技術を学ぶ」ことを目的に看護技術研修を実施しました。看護技術トレーニングに加えて、シチュエーション・ベースド・トレーニングを行いました。これは、臨床で遭遇する患者さんの状態や状況を設定し、実技と振り返りを繰り返しながら問題を解決していく思考過程のトレーニングです。振り返りでは、看護師役、患者役、観察者を体験し多くの気づきがありました。

研修の学びを活かして、一人ひとりが看護部理念である「科学する眼」と「確かな技術」で心の通う看護が提供できることを期待しています。



「初期臨床研修医オリエンテーション2017」報告

臨床研修センター長 甲谷 哲郎

オリエンテーションは、辞令交付の4月3日（月）から8日（土）の6日間で行われました。対象は1年目研修医13名（医科12名、歯科1名）です。実習中心の参加型プログラムが用意されました。「研修システム説明」後に「院内探検（院内各部署訪問）」を行い、屋上ヘリポートでは恒例の全員ジャンプの記念写真を撮りました。「リスクマネジメント」、「感染防止対策」、「消毒ドレーピング実習」、「縫合実習」、「細菌・輸血実習」他の多数の実習を経験。「採血・

点滴実習」では研修医同志で、相手を思いやりながらの採血を実感し、「看護シャドウイング」では深夜帯看護師に同伴して厳しい業務を体験。「電子カルテ入門」、「救急患者搬入シミュレーション実習」などでは2年目研修医が自らの1年間の経験を生かして実践的な指導を行いました。最終日は ICLS 講習会で救急蘇生法を体験して締めくくりました。研修医の皆さんの今後の活躍を期待しています。

緩和ケア研修会報告

地域連携センター 地域連携係 大畑 雅宏

5月27日（土）28日（日）の両日、当院講堂において、緩和ケア研修会 in 市立札幌病院が開催されました。例年は冬に開催している当該研修会ですが、がん診療連携拠点病院では平成29年6月までにがん診療に関わる9割以上の医師がこの緩和ケア研修会を完了することをふまえて受講率向上のために時期を早めての開催となりました。その影響を受け、今回の研修会には、早い時期からたくさんの申込み・お問い合わせがあり、当初予定していた受講定員36名を41名に拡大し、院外26名、院内15名の医師に受講していただくことができました。

研修会の内容は、終末期がん患者に対するオピオ

イドの使用法や合併症への対応方法等をロールプレイ・ワークショップを通じて学んだほか、注目が高まっている「がんリハビリテーション」の講義等、幅広い内容で行われました。

当院での開催は今回で10回目となりました。次年度以降もがん診療連携拠点病院として研修会を続けていきますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

